

# 事業所における放課後等デイサービス自己評価結果（公表）

公表：令和 3年 3月24日

事業所名 西紋こども発達支援センター

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標工夫している点
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	1		
	2	職員の配置数は適切である	3	1	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員数（専門職含む）が増えるとよい。</li> <li>・まだ保育士の欠員があり配置されればよいと思う。</li> <li>・専門職のOTかPT及び保育士の配置が望ましい。</li> </ul>
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	1		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7			<ul style="list-style-type: none"> <li>・療育会議やミーティングで目標や課題等を話し合っているほか、一定の方向が示された案件を職員全員で共有している。</li> </ul>
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	2		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	3	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第三者による外部評価を実施していない。</li> </ul>
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7			<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜実施し知識を共有することができた。</li> <li>・コロナ禍で講師を招聘しての研修が減少するなか、リモートの研修に積極的に参加し専門的知見を広げている。</li> </ul>
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメント方法について今後も検討していく。</li> </ul>
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメント方法について今後も検討していく。</li> <li>・アセスメントツールが増え、使用頻度も増えている。</li> </ul>
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			<ul style="list-style-type: none"> <li>・各児の状況に応じて対応している。</li> <li>・個々の児童に配慮したプログラムを実施し固定化しないように様々な工夫を凝らしている。</li> </ul>
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	3		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・打ち合わせで内容や役割分担（リード、補助）を決めている。</li> </ul>
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	3	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できる範囲で気になったこと等を伝え合うようにしている。</li> <li>・必ずではないが職員間で空いている時間に行っている。</li> <li>・支援終了後に必ずできているとはかぎらない。</li> <li>・勤務終了時間が違うため当日の振り返りをしていないが、問題が発生した場合や職員間で共有することがあれば後日打合せを実施している。</li> </ul>
	17	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	4	3		
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7			

関係機関や保護者との連携	21	学校等の情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	5	2		・不十分なところもあり、もっと情報共有できたらと思う。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	2	1	・医療的ケア児童の受け入れはない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6	1		・改めて会議等や引継ぎ文書などの作成はしていないが、相談支援専門員などと連携し、情報共有してきたことが伝わるようにしている。 ・必要に応じて対応している。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2		5	
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	6	1		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	3	2	・今後導入予定である。
保護者への説明責任等	30	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	1		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7			
	35	個人情報の取扱に十分注意している	7			
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		2	5	
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7			

非常時等の対応	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5		2	・身体的拘束を要する児童の通所はない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5		2	・保護者へ確認している。 ・食事の提供はない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7			